

副官ヨリ陸軍獸醫資材本廠長へ通牒

陸 亞 宏

時局用トシテ別紙ノ通 血清類ヲ夫々交付セラレ
度依命通牒ス

追テ之カ輸送ニ要スル經費ハ臨時軍事費、馬
匹費ノ支辨トシ貴廠令達豫算内ヲ以テ支
辨セラレ度申添フ

一 陸亞宏第四八九六 昭和七年三月五日

同件副官ヨリ陸軍獸醫學校長へ通牒

時局用トシテ貴校ニ於テ製造保管ノ血清類中左
記ノ通陸軍獸醫資材本廠へ交付セラレ度依命通牒ス

記

陸亞宏第四八九六 昭和七年三月五日

腺疫豫防液

七〇〇〇瓶

馬傳染性流産菌液

一〇〇〇瓶

傳貧診斷液第一液

三〇〇瓶

同 第二第三液 各 五〇〇瓶

陸軍

同伴副官ヨリ留守第二、留守第六、第五三師團參謀長、
中央馬廠長へ通牒

時局用トシテ別紙ノ通血清類ヲ陸軍獸醫資材
本廠ヲシテ交付セシメラルルニ付依命通牒ス

一 陸軍省第四八九六號

昭和七年三月五日

東京・小津納

別紙

血清類交付數量表

考 備	計	受領部隊				品 目
		中央馬廠	第五十三師團	留守第六師團	留守第二師團	
本血清類中 腺疫豫防液、馬傳染性流産菌液、傳食診斷液、陸軍獸醫學校 より受領ノ上其ノ他ハ陸軍獸醫資材本廠保管品ヲ交付スルモノトス	二〇		二〇			炭疽診断液 (耗)
	五〇〇〇		五〇〇〇			炭疽血清 (耗)
	一五〇〇〇〇	一三〇〇〇〇	五〇〇〇	一五〇〇〇		腺疫血清 (耗)
	七〇〇〇		七〇〇〇			腺疫豫防液 (耗)
	五〇〇			五〇〇		破傷風血清 (耗)
	一一〇〇	一一〇〇				馬傳染性流産菌液 (耗)
	三〇〇		三〇〇			傳食診斷液 第一液
	五〇〇		五〇〇			傳食診斷液 第二液
	五〇〇		五〇〇			傳食診斷液 第三液 (耗)
	三〇〇〇				三〇〇〇	豚コレラ血清 (耗)

課長 課長 課長

0238

仙歌第六三二號

診斷液部請求書

昭和十七年十一月二十六日 仙臺師團醫務部長 角 田 一 平

陸軍省兵務局長 田 中 隆 吉 殿

診斷液等左記ノ備及請求候也

左 記

品 目	數 量	所要時間	送付ヲ受クヘキ 部 隊	備 考
豚コレラ血清	1000cc	十一月二十八日	仙臺師團醫務部	一 仙臺第一陸軍病院宮城野原分院ニ飼育中ノ豚ニ接種スルモノトス 二 本請求書ハ昭和十七年十一月二十日仙歌電第五八號ニヨル分トス
				接種豚頭數 九頭 二回接種トシ豫備ヲ含ム

陸

7.11.27
歌謡課

0239

課員	課員	課員	課員
----	----	----	----

熊師獸發第五四一號

獸醫材料交付相成度件申請

昭和十七年十一月十七日

熊本師團獸醫部長 寺田

陸軍省兵務局長 田中隆吉殿

首題ノ材料左記ノ通り交付相成度申請ス

左記

膿 疫 血 清 一五〇〇〇瓦

破傷風 血 清 五〇〇瓦



陸軍



0240

京都師團獸醫部 第三六四號

血清類請求書

昭和拾七年二月二十五日

京都師團獸醫部長 新田 庄吉

陸軍省兵務局 陸軍中隊 陸軍

血清類左記ノ通請求ス

左記

品	目数	量	時期	送付ヲ受クヘキ部隊
炭疽血清	五	〇〇〇		京都市伏見區深草 京都師團獸醫部
腺疫血清	五	〇〇〇		
腺疫豫防疫	七	〇〇〇		
アモシ酒精試薬第一液	五	〇〇〇	至急ニ	
同 第二液	一	〇〇〇		
同 第三液	一	〇〇〇		

備考 一腺疫血清陸軍獸醫學校ニ於テ製造セザルニテ支付セラレ度

陸

17.11.27
2959
獣醫部

課長 員 務

0241

中馬甲第一二三號

壯馬購買用血清類交付相成度ノ件申請

昭和十七年十一月三十日

中央馬廠長 齋藤 義次

陸軍省兵務局長心得 奈須 義雄 殿

首題ノ件左記ノ通申請ス

左記

品目	單位	數量	送付期日
腺疫血清	牝	一三〇、〇〇〇	昭和十八年 一月上旬
馬流產菌液	牝	一、一〇〇	

送付ヲ受クヘキ部隊

中央馬廠本部

陸

